

令和7年度 施策評価シート

基本目標	V 区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政 策	510 コミュニティの輪を広げ、協働によるまちをつくる
施 策	513 地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる
施策の 目標	異なる文化や生活習慣、価値観等を認め合う多文化共生のまちが実現し、外国人にとっても暮らしやすいまちになっています。

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「やさしい日本語」による情報発信数（件）				
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2
目 標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	43
	R3	R4	R5	R6	R7
目 標	—	—	—	—	70
実績	—	—	—	—	

指標名	「通訳・翻訳ボランティア」登録者数（人） ※2年に一度更新あり。令和7年度更新				
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2
目 標	50	50	60	70	80
実績	67	47	63	43	47
	R3	R4	R5	R6	R7
目 標	80	90	90	100	100
実績	40	57	47	50	

2 目標と現状（実績）についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
外国人住民数は増加傾向にあったが、令和2年4月の12,942人をピークに減少に転じ、令和4年4月では、コロナウイルス感染症の影響に伴い11,923人となりました。その後増加に転じ、令和7年4月現在では、17,035人となり、区民の約5.9%を占めています。また、国籍も様々で、令和7年1月現在では、約100ヶ国の住民がいます。その中で、多言語での対応は難しく、外国人住民が日本語を習得する支援及び外国人にもわかりやすい日本語でコミュニケーションをとる必要があります。	R4	7,247
	R5	6,007
	R6	6,588

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	対象者（外国人住民）に対して、情報発信などの、広報等の工夫が必要である。

4 今後の施策の運営方針

	施策の戦略的方向性
○	（1）優先的に資源投入を図る
●	（2）現状維持とする
○	（3）現状維持だが、より効率的な運営を図る
○	（4）資源投入の縮小を図る
上記の判断理由	
日本語ボランティア養成講座の実施により新規日本語ボランティア教室が立ち上がるなどの一定の成果は出ているものの、引き続き、日本語ボランティアの養成や、「やさしい日本語」による情報発信等をしていく必要があるため。	
今後の具体的な方針	
外国人にとって暮らしやすいまちを実現するためには、言語面のサポートが不可欠である。そのため、外国人にも伝わりやすいように工夫した「やさしい日本語」の普及啓発、日本語学習の場で活動する「日本語ボランティア」の養成等を行っていく。	

5 この施策に係る事務事業

番号	事務事業名	主管課	決算額(A) (千円)	人コスト(B) (千円)	総事業費 (A+B) (千円)	評価結果
1	多文化共生事業費	文化芸術振興課	1,096	5,492	6,588	現状維持

令和7年度 事務事業評価シート

No. 1

施 策	513 地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる					
事 業 名	多文化共生事業費					
主管課	文化芸術振興課	電話番号（内線）	5 4 5 6			
目 的	増加する外国人住民に対し、日本語教育等の支援を行い、外国人にとって暮らしやすい環境を創出している。					
対 象 者	在住外国人					
根拠法令 関連計画						
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤職員 2	
事業内容	国籍や民族などが異なる人々と互いの文化的差異を認め、外国人が地域社会の一員としてともに生きていく、多文化共生社会の実現に資する事業を実施する。 （令和7年度 事業予定） 外国人のための防災ツアー 日本語ボランティア養成講座 外国人の日本語発表会 「やさしい日本語」アドバイザー業務による、庁内における情報発信の「やさしい日本語」化 通訳・翻訳ボランティア制度の活用による区刊行物等の多言語化					
経 過	開始年度	平成18年度			終了予定	
	平成30年度まで、墨田区国際化推進クラブと協働で、在住外国人支援に資する事業を実施したが、令和元年度より、日本語ボランティア養成講座を区直営で実施するなど、多文化共生事業の大幅な見直しがあった。 （経過） 平成18年9月 墨田区国際化推進クラブ（SIPC）設立 ⇒区からの補助金を原資として、外国人のための日本文化体験、日本語ボランティア養成講座、すみだまつりへの出展事業等を実施 平成31年3月 墨田区国際化推進クラブ（SIPC）解散					
議会質問 の 状 況	令和5年（決算特別委員会） 多文化共生事業について、区民の方々にも多文化共生の考え方をしっかり知ってもらい、双方向で解決していくことが重要と思う。 （答弁）多文化共生のまちづくりは、非常に重要な施策と考えている。双方向で多文化共生に取り組んでいくということで、日本語ボランティア養成講座等事業展開しており、着実な事業展開を図っていきたい。					
そ の 他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和7年10月～11月 日本語ボランティア養成講座 令和7年10月18日（予定） 外国人の日本語発表会 令和7年11月16日（予定） 外国人のための防災ツアー					

予算・決算額推移（単位：千円）		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
予算現額（令和7年度は当初予算）		3,823	1,009	1,019	1,037	1,226	1,273
A. 決算額（令和7年度は見込み）		3,162	963	930	900	1,096	1,273
財 源	国	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0
	その他	1,982	0	0	0	0	0
一般財源		1,180	963	930	900	1,096	1,273
執行率（％）		82.71％	95.44％	91.27％	86.79％	89.4％	100％
B. 人コスト		5,293	5,278	6,317	5,107	5,492	
総事業費（A+B）		8,455	6,241	7,247	6,007	6,588	
予算書P（令和7年度）		P119 3-1		執行実績報告書P（令和6年度）		P57	

主な予算・決算の内訳（単位：千円）					
令和5年度（決算）		令和6年度（決算）		令和7年度（当初予算）	
節	金額	節	金額	節	金額
委託料	864	委託料	1,064	委託料	1,100
報償費	32	報償費	29	報償費	100
役務費	5	役務費	4	負担金補助及び交付金	40
				需用費	17
				役務費	16
概 要		概 要		概 要	

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年 (H28)	H29	H30	H31
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	外国人住民数				単位	
		最終目標値	目標年度		基準年 (H28)	H29	H30	H31
		15,000	令和7年度	目標	11,500	11,850	12,200	12,550
				実績	11,530	12,056	12,543	12,942
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	12,950	13,300	13,700	14,150	14,550	15,000
		実績	12,303	11,923	14,225	15,960	17,035	
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		外国人にとって暮らしやすい社会が実現すれば、結果として外国人住民数の増につながってくると考えられるため、外国人住民数を活動指標とした。（年3%増見込）						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	国籍の多様化により、多言語での対応は難しくなっている。引き続き、在住外国人が日本語を習得するための支援及び、区民に向けて、外国人住民にも伝わるよう工夫した「やさしい日本語」の普及啓発を重点的に取り組む。

課題・問題点
「やさしい日本語」による情報発信に取り組んでいる部署を増やしていく必要があり、庁内職員に向けた「やさしい日本語」の普及啓発に取り組み、各部署の職員それぞれが、「やさしい日本語」で対応できるようにすることが、今後の課題である。